



# ZENFUREN

全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

**附属だより 第120号**

全附連ホームページ  
<http://www.zenfuren.org/>

全附P連最新情報  
[https://www.facebook.com/\(-社\)全国国立大学附属学校PTA連合会-535185576863562/](https://www.facebook.com/(-社)全国国立大学附属学校PTA連合会-535185576863562/)

~子どもたちとこの国の未来のために~

## (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会創立70周年記念式典

### 秋篠宮皇嗣殿下お言葉

2022年9月30日



本日、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会の創立70周年記念式典が開催され、全国から参加された皆様と共に祝いできますことを、誠に喜ばしく思います。

現在、全国に253設置されている国立大学附属学校は、日本の公教育の根幹を支え、教育水準の向上を目指す役割を担っております。国の拠点校として、また各地域のモデル校として、実験的そして先導的な学校教育への取り組みや教育実習の実施、国立大学や学部における教育に関する研究への協力などをはじめ、これまで公教育を牽引し、我が国の教育の発展に大きく貢献をしてきました。

全国国立大学附属学校PTA連合会は、1952年に国立大学附属学校ならびに附属学校単位に構成された単位PTAの支援を目的として創立されました。爾来、70年の長きにわたって、公教育、社会教育、家庭教育の充実とともに国立大学附属学校相互の交流を図り、教育全般の発展に尽力をしてこられました。

また、「絵画コンクール」や「作文・絵作文コンクール」、コロナ禍における「みんながつながるオンライン文化祭」の開催、財政教育など社会課題と教育現場をつなぐ活動、いじめの防止や障害についての「理解」と「共生」を育む活動をされるなど、児童・生徒を取り巻く多くの課題に積極的に取り組んでおられると伺っております。

近年、時代が移ろうなかで、現代的教育課題への取り組みや令和の日本型学校教育構築へ向けての役割、そして地域のモデル校としての役割など、国立大学附属学校が果たす役割には大変大きなものがあることと推察いたします。全国国立大学附属学校PTA連合会ならびに会員の皆様には、これからも大学、附属学校、保護者が手をたずさえながら日本の公教育を支え、未来を担う児童・生徒たちの健全な育成のために、より一層力を尽くしていかれることを祈念しております。

終わりに、長きにわたりPTAの活動に尽力をされ、本日、表彰を受けられる方々をはじめ、これまで弛みなくPTA活動を支えてこられた多くの関係者のご努力に対して深く敬意を表し、本式典に寄せる言葉といたします。



### 秋篠宮皇嗣同妃両殿下

### ご臨席のもと挙行されました

秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、創立70周年記念式典が厳かな雰囲気の中始まりました。まずは全附P連の70年の歴史をまとめた動画を参加者同で視聴し、その中で全附P連設立の経緯、連盟との関係性、設立後の活動の歩みなどが紹介され、改めて全附P連の活動の意義、重みを感じることができました。

また、全附P連では5年ごとに文部科学大臣からPTA活動振興功労者表彰を賜っております。本年度は、35名が表彰を受けました。3年ぶりに集合型で開催されることになりました全国大会の幕開けに相応しい式典となりました。



### 第120号 LINEUP

全国大会70周年記念式典

1-5面

連盟記事

6面

絵画コンクール2022

7-9面

いじめ防止対策新しい取り組み  
鳴門教育大学大学院特命教授  
(名誉教授) 阪根 健二 氏

10面

今できることを、できるかたちで  
~自分たちで創るコロナ禍の野外音楽会~  
お茶の水女子大学附属小学校  
大成功を収めたサプライズ企画満載の  
「夕涼み会」~メロリストに憧れを抱く子どもたち~  
福岡教育大学附属幼稚園

11面

全附P連告知

12面

### 創立70周年にあたり感謝の言葉



一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会  
会長 大竹 昌士  
(茨城大学教育学部附属小学校)

9月30日、10月1日の2日間、3年ぶりに集合型での開催となるPTA研修会全国大会を開催いたしました。また、大会1日目には秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、全附P連創立70周年記念式典を挙行することができました。式典では、永岡文部科学大臣からPTA活動振興功労者への表彰をしていただきました。全国の附属学校関係者にとって、とても励みになる式典になりましたことに心から感謝申し上げるとともに、これまで附属学校に携われた関係者の皆様へ深く敬意を表したいと思います。全附P連は創立70周年ビジョンを掲げ、これからも全国の附属学校にとって有益な活動を続けてまいります。単位PTAの皆様には、各学校園を通して全附P連の事業をご案内させていただきますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### ハードウェア側の充実を目指して



全国国立大学附属学校連盟  
理事長 吉田 裕亮  
(お茶の水女子大学附属高等学校長)

今年9月の全附P連創立70周年記念式典に、出席させていただいた際に、様々な附属学校園のPTAならびに教育後援会の皆様、全国の附属学校をご卒業されたOGの方々と意見交換の機会を得ました。そして各附属学校園が、いかに多くの優れた先生方を擁し日本の公教育に貢献してきたかをあらためて認識いたしました。また同時に、各学校園が校舎等の施設整備に、いかにご苦労されているかも痛切に感じました。計算機に例えるならば、児童・生徒と先生方はソフトウェア側で、施設等のインフラはハードウェア側かと存じます。高度なソフトウェアを実装するには、強靱なハードウェアが必要となります。今後は、ハードウェアの整備も重要な課題かと存じます。引き続き、皆様方からのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 創立70周年記念式典

## 全国国立大学附属学校 P T A 連合会 創立70周年記念式典 文部科学大臣祝辞



文部科学大臣  
永岡 桂子様

本日、一般社団法人全国国立大学附属学校 P T A 連合会の創立70周年記念式典が、秋篠宮皇嗣妃両殿下の御臨席を仰ぎ、このように盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

一般社団法人全国国立大学附属学校 P T A 連合会におかれましては、70年という長きにわたり、P T A 活動の実践と研鑽に御尽力いただきまして、心から感謝申し上げます。

また、本日、文部科学大臣表彰を受けられる皆様におかれましては、P T A の組織や運営の改善など、他の模範となる活動に努められ、P T A 活動の振興に多大な貢献をされました。これまでの御功績に対し、深く敬意を表します。

社会が大きく変化する中、文部科学省では、令和の日本型学校教育を実現し、教育の質の向上につなげるため、教師の働き方改革への取組に加え、一人一台端末の導入など「GIGAスクール構想」を進めているところです。今後、新しい時代の学校教育が実現されていくに当たり、国立大学附属学校がより先導的な役割を果たしていただくことを期待しています。

本日御出席の皆様方におかれましては、国立大学附属学校のおよき理解者として、今後とも、御理解とお力添えをいただきますようお願いいたします。

また、一般社団法人全国国立大学附属学校 P T A 連合会におかれましては、引き続き各校の声を耳を傾けていただきますとともに、各校の参考となる情報の発信等に努めてくださいますようお願い申し上げます。

結びに、本式典の開催に御尽力されました関係各位に深く敬意を表しますとともに、一般社団法人全国国立大学附属学校 P T A 連合会のみならず、御発展と、皆様方の一層の御活躍を祈念して、私からの祝いの言葉といたします。



国立大学附属学校  
全国同窓会会長  
塩谷 立様

はじめに創立70周年のお祝いを述べられた後、お立場である国立大学附属学校全国同窓会の成り立ちと会長に就任された経緯の説明がありました。それはご自身が静岡の国立附属学校出身であること、そして文部科学大臣を歴任されたこと指名をされたこととでした。

第1回同窓会後は残念ながらコロナ禍のため活動ができていないことを悔やんでいましたが、附属学校が財政的に厳しい状況に置かれている現状を解決するために「国が大学に支出している運営費交付金だけでは不足している。日本の教育発展のために別枠で予算化する」と心強いお言葉をいただきました。



国立大学附属学校  
振興議員連盟会長  
森 英介様

はじめに、「本日は秋篠宮皇嗣妃両殿下のご臨席を仰ぎ、全附P連70周年記念式典がこのような盛大に開催されますことに、心からお喜びを申し上げます。」とお祝いのお言葉を頂戴いたしました。

その後、附属学校はこれまで日本の教育に大きな貢献をし、森会長が通われた学芸大附属でも、とても良い思い出が多くあり、素晴らしい教育環境であったと仰いました。しかし、母校の校舎などの老朽化がかなり進んでいるとご自身の思い出とともに、現状を述べられました。

結びに「全国の附属学校がさらに発展していくように、塩谷先生とも協力しながら活動していきたいと思っております。本日は本当におめでとうございます。」と、弊会への励ましのお力強いお言葉もいただきました。



国立大学附属学校  
連盟理事長  
吉田 裕亮様

はじめに我が国の近代学校制度が始まって150年目にあたる節目の年に国立大学附属学校 P T A 連合が創立70周年を迎えたことのお祝いを述べられた後、2年半にも及ぶコロナ禍により社会環境が大きく変化したこと、Society 5.0の時代を迎え、多様性を重視した教育が求められているからこそ、学校と家庭の連携が不可欠であり、P T A の果たす役割は層大さなものになるということをお話いただきました。また、「今後もP T A 連合会70年におよぶ伝統と知見を活かし緊密な連携の下、様々な課題の解決に向けて取り組んでまいります。」とお言葉をいただきました。

全附P連は、この創立70周年を機に、全国の単位P T A の皆様とともに、大学、附属学校、保護者が三位一体となり、更に公益的、公共的で地域や社会に広く支持される活動を通して、日本の公教育に貢献し続けてまいります。



一般社団法人  
全国国立大学附属学校  
P T A 連合会会長  
大竹 昌士

## 会長式辞

全附P連は、この創立70周年を機に、全国の単位P T A の皆様とともに、大学、附属学校、保護者が三位一体となり、更に公益的、公共的で地域や社会に広く支持される活動を通して、日本の公教育に貢献し続けてまいります。

これからの子どもたちとこの国の未来のために、国立大学附属学校のP T A として、その存在意義や社会的使命を高めるべく、活動してまいりたいことをお誓い申し上げますとともに、本日もご臨席のすべての皆様のご健康ご多幸を心より祈念申し上げます、主催者代表のご挨拶といたします。

# 文部科学大臣表彰

全附P連創立70周年記念式典において、文部科学大臣P T A 活動振興功労者表彰式が執り行われました。

全附P連では5年に1度、P T A 活動の振興に功労のあった者に対しその功績をたたえ、国立大学附属学校 P T A に係わるP T A 活動振興功労者として個人を表彰しています。

本年度は35名の方が、選考委員会へ被表彰候補者調査表、履歴書、所属の国立大学法人学長の推薦状を提出し、その後文部科学省での審査を経て、見事表彰を受けられました。表彰状は式典において、文部科学省総合教育政策局藤江陽子局長より一人一人に授与されました。

また式典の最後には、藤江局長を中心に表彰を受けられた方全員で記念撮影をするといった、厳粛な式典の中でも、ほほえましい光景を見ることができました。

今回、表彰を受けられた皆様には、この国と子どもたちの未来のため、そして、ともに取り組んでくださるP T A のメンバーを一人でも多く広

げるため、引き続き附属学校でのP T A 活動にお力添えいただければ幸いです。

この度の文部科学大臣表彰、誠にありがとうございます。



## 被表彰者一覧

- |       |          |
|-------|----------|
| 梅本剛   | 北海道教育札幌小 |
| 服部直毅  | 北海道教育札幌中 |
| 田口智之  | 岩手中      |
| 田辺雅人  | 岩手特支     |
| 千葉真己恵 | 宮城教育中    |
| 西井英正  | 宮城教育中    |
| 佐藤淳   | 秋田小      |
| 齋藤伸   | 福島特支     |
| 大竹昌士  | 茨城小      |
| 幡谷史朗  | 茨城中      |
| 長澤秀剛  | 宇都宮中     |
| 阿部智   | 千葉中      |
| 高地たか子 | 千葉中      |
| 鈴木規秀  | 金沢中      |
| 高部光洋  | 静岡浜松中    |
| 二村美里  | 静岡浜松中    |
| 石丸泰雄  | 名古屋中高    |
| 落合賢治  | 三重小      |
| 桑名良尚  | 三重幼      |
| 西村寧   | 滋賀小      |
| 小林哲也  | 京都教育桃山中  |
| 今井康次  | 大阪教育野野小  |
| 寺畑俊雄  | 神戸小      |
| 増田梓   | 神戸特支     |
| 森川誠   | 奈良女子中等教育 |
| 廻野智則  | 広島福山中高   |
| 北島一人  | 鳴門教育中    |
| 山口和行  | 鳴門教育中    |
| 宮本昌尚  | 香川坂出学園   |
| 谷田部秀男 | 香川高松小    |
| 井手英人  | 福岡教育久留米中 |
| 中川恵司  | 福岡教育久留米中 |
| 田島寿太郎 | 福岡教育久留米中 |
| 江添雅文  | 佐賀中      |
| 木場一志  | 長崎中      |

(敬称略)



# 1日目

## 70周年記念講演 **SDGs入門** ～SDGsと日本の未来、今教育に求めること～

70周年記念講演は慶應義塾大学大学院教授の岸博幸先生にご講演いただきました。

まず、SDGsとは何か？ということについて説明していただきました。SDGsとは、貧困、格差、気候変動など、世界のさまざまな問題を解決し、より良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標です。

次に、なぜSDGs活動が始まったのか教えていただきました。今まで、世界の企業は環境問題や地元企業を無視し、短期的な利益だけを追求してきました。そこで長期的な視点で、環境や地域社会の発展を考えながら利益を出す様に各企業が取り組み始めたそうです。

その例として、福井県鯖江市で、伝統文化の「うるし」に照準をあて、若いデザイナーと伝統的なうるし技術を組み合わせた商品を生み出し、市の発展をサポート。また、沖縄県国頭村では観光客が望めない立地の為、ビジネス関連の社員研修や会議場が利用できる設備を整え、違う窓口からの観光客を増やすご自身の取り組みをご紹介します。



現在、SDGsが求められる社会に変化したように、教育環境は大きく変化しています。

GIGAスクール構想では、1人1台電子端末を持つようになり、従来の計算や暗記などの勉強だけではない能力が求められるようになりました。その能力は、大きく分けると①自分で定義する(自分で問題を作る)②クリエイティブな問題解決(ネット検索だけにしない)③コミュニケーション能力の向上の3つで、これから求められるのはイノベーション能力と提唱されました。

このように、SDGsを元に様々な角度から、今教育に必要なことについて講演していただきました。

### プロフィール

岸 博幸 氏  
(慶應義塾大学大学院  
メディアデザイン研究科教授)



1962年 東京都生まれ。1986年 一橋大学経済学部卒業、通商産業省(現・経済産業省)入省後、コロンビア大学経営大学院にてMBAを取得。竹中平蔵大臣(当時)補佐官、政務秘書官などを務め、構造改革の立案・実行に携わる。現在は、テレビ番組のコメンテーターや講演会など幅広く活躍。

### タイムスケジュール

#### ■第1日目 9月30日(金)

I		II		III	
12:00	開会(13:00)	14:30	14:50	16:10	16:30
受付	開会行事 70周年記念式典	休憩	70周年記念講演 岸 博幸 教授	休憩	テーマ別分科会 幼稚園部会 特別支援部会
	90分		80分		90分

#### ■第2日目 10月1日(土)

IV		V		VI		閉会
8:30	9:00	10:00	10:55	11:15	12:35	(12:40)
受付	全国大会基調講演 齋藤 孝 教授	省庁行政説明 全附P連活動報告	休憩	活動紹介 パネル ディスカッション		閉会行事
	60分	55分		80分		5分

# 2日目

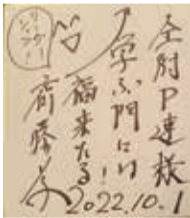
## 全国大会基調講演 **生きる力を育てる学力**

基調講演は、明治大学文学部教授 教育学者の齋藤孝先生に「生きる力を育てる学力」と題して、ご講演いただきました。

「声に出して読みたい日本語」で日本語ブームを作られ、数多くの著書を生み出し、活躍されている齋藤先生は、「齋藤メソッド」として知られる、新しい教育スタイルを提唱されています。

テレビで拝見している穏やかな笑顔は変わらず、語り口調は非常にテンポ良く、会場を一体化させる巧みな話術で、笑い声の絶えない講演会となりました。

変わりゆく時代の中で、その変化に合わせて学校での子どもたちの学びも変わってきました。しかし、時代が変わっても、「生きる力」の基本が文化遺産の継承であることに変わりはありません。学校は、その文化遺産を継承していく場所であり、子どもたちは、学校での学びの中で、「生きる力」の基本を身につける必要があります。この基本を身につけることで、クリエイティブな発想が生まれるのです。また、アイデアを引き出していくにはまず、「当事者意識を持つことが大切」など情熱的に語っていただきました。



講演の最後に、齋藤先生流超授業を大公開！生きる力を育てるメソッドを、授業としてどう展開するのかを、具体的に紹介するレシピも実践していただき、会場は大いに盛り上がりました。



### プロフィール

齋藤 孝 氏  
(明治大学文学部教授)



1960年、静岡県静岡市生まれ。静岡大学教育学部附属静岡中学校卒業。東京大学法学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程を経て現職。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。「身体感覚を取り戻す」で新潮学芸賞受賞。2001年に出した「声に出して読みたい日本語」が、シリーズ260万部のベストセラーになり、日本語ブームをつくった。著書累計出版部数は、1000万部を超える。現在、文部科学省「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」委員。

## 販売ブース

特別支援学校や福祉事業所の取組を知っていただくために、作業製品のチラシを配布するとともに、高知大学教育学部附属特別支援学校の校内にオープンする「hocco sweets」のクッキー、そして筑波大学附属大塚特別支援学校の親の会を母体とし、特別支援学校の卒業生が活躍する「工房わかぎり」のレザークラフト製品を紹介、販売しました。

また、ご講演いただいた齋藤孝先生のサイン入り書籍を販売しました。



## 大会記念品

当日会場にご参加いただきました皆様には、全国の国立大学附属特別支援学校の生徒が製作した作業製品を、エコマーク認定のナチュラル色のエコバッグに入れてお渡ししました。SDGsを志向する研修大会として、今年度の全国大会では、従来大会にて配布していた紙袋ではなく、厚手の生地を使用し長く使い続けられる布製のバッグを採用しました。



全附P連 PTA研修会

第13回 全国大会

特別分科会



<パネリスト>

上沼 紫野氏
安心ネットづくり促進協議会理事
金田 淳氏
(公社)日本PTA全国協議会会長
山田 博章氏
(一社)全国高等学校PTA連合会会長
山崎 篤史氏
全国国立幼稚園・こども園連絡協議会会長
大竹 昌士氏
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会会長

<助言者>

朝倉 博美氏
文部科学省 総合教育政策局
地域学習推進課 青少年教育室長

<コーディネーター>

神余 智夫氏
(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会直前会長

特別分科会は「GIGAスクール構想」ICTを活用したこれからのPTA活動」をテーマに、全国国立PTA4団体による合同事業として行いました。
まず、GIGAスクール時代のICTを活用したPTA活動事例を、長野県PTA連合会会長の熊谷弘氏、千葉大学附属小学校PTA会長の大泉勉氏に発表していただきました。
お二方の熱のこもった事例発表は大変参考になりました。

「GIGAスクール構想」

～ICTを活用したこれからのPTA活動～

信を行いました。「学校のICT活用に理解と協力をしていくこと。ネット・ゲーム依存について生活の質を豊かにするかしないかで判断をする。大人にも心配なネットいじめについては、PTA活動の中で多様性を尊重し、異なる条件下で児童・生徒の為に協力するという理念の為に協力できる組織風土を作り、相談に乗れるようにすることが大切である。そして、デジタル・シテイズンシップを子どもにももちろん大人にも育成していくスタンスが大切である。」とても丁寧にご講演していただきました。
最後にPTA活動の現状と未来を見据えた今後の展望を語るパネリストの発言を聞いて、朝倉氏からはコロナ禍後、そしてこれからの時代のPTA活動の進め方について助言をいただきました。
予定していましたが、1時間半があつたという間に過ぎてしまいました。
後のPTA活動を行うにあたり多くの課題・事例・展望を共有することができました。

安心ネット推進協議会から上沼理事、全国国立PTA4団体の会長4名にご登壇いただき、神余コーディネーターのもと、助言者として文部科学省朝倉氏に加わっていただきました。お二方のPTA活動事例発表、藤川先生の講演を受けそれぞれの団体の立場からICTを活用していくにはルール作りが必要であり、良いところ、悪いところを精査して活動を構築していきなご意見をうかがうことができました。年代の違い、生徒数の違い、環境の違いもあり活発な議論の場となりました。また、上沼氏にはPTA活動とICTに関する貴重なアドバイスをいただき、朝倉氏からはコロナ禍後、そしてこれからの時代のPTA活動の進め方について助言をいただきました。

幼稚園部会

分科会3では「附属幼稚園で味わう子育ての楽しみ」〜かしこさと非認知能力の育成の秘密〜
我が国の幼児教育実践研究を牽引されている鳴門大学附属幼稚園は、和衷協同して毎年のように、文部科学省の委託を受けて先進的研究を進め

「附属幼稚園で味わう子育ての楽しみ」

て来られる数々の研究の中から「非認知能力」の育成を中心に、わが子のかかり方や、健やかな成長のために保護者が理解するべきことなどを楽しみながらお話いただきました。



分科会2

分科会2では、東京医科歯科大学教授、具芳明先生に新型コロナウイルス感染症を始め、インフルエンザや風疹など、その他の感染症についても、感染リスクや重症リスクを下げるワクチンの必要性と、それぞれの感染症対策の重要性や課題についてご講演いただきました。
また具先生に加え国立感染症研究所感染症疫学センター予防接種総括研

「感染症から未来を守る」

究官の神谷元先生、香川大学教育学部附属高松小学校副校長の大嶋和彦先生をパネラーに感染症についてのパネルディスカッションがおこなわれ、参加者からも、「ワクチンの今後について」等、多くの活発な質疑が出ました。



分科会1

文部科学省は、令和2年9月に学校の働き方改革の観点から部活動を地域へ移行する方針を示しました。そしてスポーツ庁は、令和5年・7年度を部活動地域移行の「改革集中期間」とする提言案をだしています。
分科会1では大阪教育大学附属高等学校平野校舎の松田雅彦先生に、ひらの倶楽部という学校内の受け皿組織の設立経緯、工夫した点や注意点など

「学校の働き方改革と今後の地域部活動の在り方」

をご紹介いただき、スポーツ庁地域スポーツ課小久保智史氏に公立高校等の取り組みをご説明していただきました。
質疑応答では教員の関わり方など具体的な質問や、ひらの倶楽部の取り組みをぜひ参考にしたいとの感想が聞かれました。



教育後援会会長会

全附後連は、コロナ禍の状況下、休会・オンラインでの総会、初任者セミナー等を開催してまいりました。今回は全附P連の協力を得て50有余名の参加で会長会を開催することができました。
まずは、大学会計に詳しい金子會計士に講演をお願いしました。内容がかなり専門的であり皆様に全てご理解いただけただか若干心配の部分がありました。続いて特別活動委員、会狩野委員長から、現在、全附後連が取り組んでいる

教育後援会会長会報告

る寄附金取り扱いマニュアルについて途中経過を報告いたしました。来年、寄附金取り扱いガイドブックの発行予定しております。会長会のアンケートを取っておりまして次号附属だよりに掲載予定です。PTAの皆様は全附後連に関心を持ってもらえれば幸いです。



全附P連活動紹介

全附P連では、国立大学附属学校の子どもたち健やかな教育環境の充実のため、様々な活動を行っています。例えば、関係省庁に赴き現状を報告したり、各地の地区会や他のPTA団体に参加したりすることで、情報交換や交流を図っています。また、各理事は5つの委員会に分かれ、様々な業務を行っています。総務委員会は、総会や理事会全般の運営・財務委員会は会計全般・

令和4年度全附P連活動報告

広報委員会は、全附P連を周知する様々な発信・研修委員会は全国大会の企画と運営・幼稚園特別支援委員会は、保護者の交流の場作りや助成事業などです。
大変でもありますが、「大人の生徒会」よろしく、楽しく活動しています。



特別支援部会

音楽による療育活動を展開しているNPO法人「アジエンダやまがた」代表理事の児玉千賀子先生にご講演いただきました。前半は、事業を始めるにあたってのきっかけや数々のご苦労と現在の活動状況についてご紹介いただきました。「聴くこと」が苦しい障がい児に音楽の楽しさを伝えることは決して容易ではありませんでしたが、試行錯誤と研究を

「みんなの放課後に音楽を！」

～元PTA会長が広げる余暇の楽しみと笑顔～
重ね、多くの子どもたちに音楽の喜びを届けました。
後半は、一音木琴などの楽器を使用して会場の全員で合奏しました。最初は遠慮していた方も笑顔で楽しい時間を過ごすことができました。



# 省庁行政説明

## 金融経済教育を通じた金融リテラシーの向上

金融庁  
総合政策局 総合政策課  
総合政策管理官  
**亀本 雅史 氏**



「金融リテラシー調査2022」の調査結果について、また金融リテラシーの向上を図るため、金融庁は「金融リテラシー教育推進計画」を策定し、金融リテラシー教育の推進を図っています。金融リテラシー教育とは、金融に関する知識や技能を身につけ、金融商品やサービスを利用する上で必要な判断力や行動力を養うことを指します。金融庁は、金融リテラシー教育の推進を図るため、金融リテラシー教育推進計画を策定し、金融リテラシー教育の推進を図っています。金融リテラシー教育とは、金融に関する知識や技能を身につけ、金融商品やサービスを利用する上で必要な判断力や行動力を養うことを指します。

## 「財政教育プログラム」について

財務省  
大臣官房地方課  
広報連絡係 課長補佐  
**尾崎 淳 氏**



平成27年度より始まった財政教育プログラムは、今年6月に開かれたH.P.（財政教育プログラム）から利用できるようになりました。財政教育プログラムとは、財政に関する知識や技能を身につけ、財政政策の理解を深めることを目的とした教育プログラムです。財政教育プログラムは、今年6月に開かれたH.P.（財政教育プログラム）から利用できるようになりました。財政教育プログラムとは、財政に関する知識や技能を身につけ、財政政策の理解を深めることを目的とした教育プログラムです。

## 国立大学附属学校を巡る動向について

文部科学省 総合教育政策局  
教育人材政策課  
教員養成企画室長  
**小畑 康生 氏**



1, ICTの効果的な活用  
「教える授業」から「子供自ら学ぶ授業」へシフトする中で目指すべき方向性  
2, 学校における働き方改革  
附属学校における労務管理等に関する調査結果と「改訂版全国学校の地域移行に関する運動部」事例集  
3, 国立大学附属学校の使命・役割  
現在の使命・役割を3点に整理された説明と教員就職状況の推移について  
以上3項目について説明していただきました。

## パネルディスカッション

- ▲ハネリスト▼
- 小畑 康生 氏  
文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長
- 荒川 真一 氏  
大阪教育大学附属池田小学校 副校長
- 小林 一博 氏  
北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程 副校長
- 藤田 和昌 氏  
兵庫教育大学附属小学校 前PTA会長
- 大竹 昌士 氏  
（社）全国国立大学附属学校PTA連合会 会長
- ▲コーディネーター▼  
高地 たか子 氏  
（一社）全国国立大学附属学校PTA連合会 専務理事



SDGsから考える、附属学校の役割。SDGs（持続可能な開発目標）は、2030年までに達成を目指す国際目標です。附属学校は、SDGsの達成に貢献する重要な役割を果たしています。附属学校は、SDGsの達成に貢献する重要な役割を果たしています。附属学校は、SDGsの達成に貢献する重要な役割を果たしています。

## 学校事例発表

### 社会をSDGsの視点で見つめ直す 持続可能な教育課程の構築

ユネスコの加盟校となっている本校では、総合的な学習と関連するESD（持続可能な開発のための教育）の視点とSDGsの具体的な行動目標を関連づけています。より具体的なSDGsの活動を意識するための、3年前から地元の企業を通して、「服のチカラ」プロジェクト、今年度は「野外フェス」を実施しました。本プロジェクトをはじめ、様々な体験活動を通して、生徒たちは、何気ないところに自分たちでも無理なくできる地域貢献、多くの人に喜んで貰える社会貢献が眠っていることに気が付いたようです。この活動を通して感じた重要なポイントは『意識・工夫・継続』です。大切なことは学校だけで行うことなく、生徒も保護者も関わり、地域の人材も積極的に活用し、これからの人材育成に協力していただくことです。地域とともに進化する附属学校を思い描くことがますます重要と考えています。

北海道教育大学附属  
釧路義務教育学校  
後期課程 副校長  
**小林 一博 氏**



## PTA活動事例発表

### 文化庁セミナー教育講演会 「性の多様性について」

令和3年度のPTA会長のテーマ『笑ろてるPTAがええやん！』を役員の皆様に会長の思いを伝えました。小学校に関わる全ての人を笑顔にする為です。文化庁の部長さんから『性の多様性』に関する講演会をするのもよいのでは？と相談を受けました。悩んでいる子どもたちを笑顔にできるかもしれないと思い、開催に向けて準備を進め、講師は、前田 良 氏 (Like myself 代表) に依頼しました。活動の中で特に注意したのが、このテーマに対して悩みや疑問、不安を抱えている児童や保護者に対し、プライバシーを守りつつ、それらを少しでも解消し、次に繋げる為にPTAとして何が出来るかという事です。一度、講演を聞いて終わりにならないように、事前案内で理解を深め、無記名で質問・アンケートを取り、後日視聴できるようにもしました。お互いの多様性を認め合うことの大切さを学ぶ機会を小学校生活で体験できたことは、今後のグローバル社会を生きていく子どもたちには大変有意義であったと思います。

兵庫教育大学附属小学校  
前PTA会長  
**藤田 和昌 氏**



## 大会宣言

本連合会は、創立70周年を迎えました。新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えない中、今できる最善の活動をめざし、活動を止めることなく進めてきました。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、新しい生活様式が取り入れられ、子どもたちを取り巻く環境も大きく影響を受け、激動の時代を迎えています。今回、国立大学附属学校の保護者・教職員の皆さまと情報を共有することが重要であると考え、集合型とライブ配信のハイブリッド形式で「子どもたちとこの国の未来のために～附属がこれまでやってきたこと、これからやっていくこと～」をスローガンに掲げ、全附P連PTA研修会 第13回全国大会を開催しました。本大会は、コロナ禍の影響を受けて気づかされた課題、グローバル化が高度に進んでいる中で、現代社会の課題であるSDGsへの取り組みとICTを活用したPTA活動を取り上げました。附属学校の先進的な取り組み、地域と連携した活動など国立大学附属学校としての役割や特色を発信し、参加者が共に学ぶ機会となりました。保護者として関わられることを再確認し、国立大学附属学校の新たな可能性について積極的に検討しました。さらに、国立大学第4期中期目標・中期計画が策定され、それを基に、より国や地域に必要な国立大学附属学校となるための方策や今後の可能性について、共有することができました。当連合会では、子どもたちとこの国の未来のために、国立大学附属学校におけるPTA活動の振興を図り、国立大学附属学校の持つ社会的使命、存在意義などを国や地域に広く発信・共有し、さらに、国立大学附属学校がより公益的・公共的な役割を果たしていけるよう、積極的な活動を展開することをここに宣言します。



令和4年10月1日  
一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会  
全附P連PTA研修会 第13回全国大会

## 創立70周年ビジョン

課題を克服し、持続可能な社会の実現を目指す。このビジョンは、附属学校の未来を展望し、持続可能な社会の実現を目指すことを目的としています。附属学校の未来を展望し、持続可能な社会の実現を目指すことを目的としています。附属学校の未来を展望し、持続可能な社会の実現を目指すことを目的としています。

活動紹介とパネルディスカッション

# 全附連盟特集ページ「附属学校における教育実習の実際」

## 東京学芸大学附属竹早小学校における教育実習の取り組みより

東京学芸大学附属竹早小学校  
校長 鎌田 正裕



附属学校の使命の一つに、児童生徒への教育に加え将来教員を目指す大学生への教育があり、本校も年間100名を超える初等教育教員養成課程の学生を教育実習生として受け入れています。実習では授業実践力の向上や学級経営についての理解を深めることがまず求められますが、そのためにも、子ども一人ひとりの声をしっかり聴いて子どもの考えを理解するよう指導しています。休み時間も積極的に子どもと遊ぶように声をかけるのは、他でも広く行われていると思います。給食の時間も、子どもとかわる絶好のチャンスなのですが、こちらはコロナ禍で実践できていないのが残念です。もうひとつ実習生に求めたいものとして、実習生には子どもと向き合う中で、自分が将来何をやりたいのかをもう一度考えて欲しいと思っています。学芸大学の学生は、皆教職を目指して入学してきますが、高校時代に抱いていた教職のイメージに、迷いや不安を感じる学生は少なくありませ



ん。そのような学生が、もう一度自分の夢や適性を見つめ、自分の将来について考えてみる機会はとても貴重です。このように書くと、教育実習って、実習に来る学生のみが受益者のように感じられてしまいそうですが、子どもにとって、実習生は近い将来の自分の未来の姿（あんなお兄さんやお姉さんになりたいと感じさせてくれる存在）であり、遊び時間を含め、実習生から学ぶものは決して少なくありません。また、教員にとっても、実習生は昔の自分の姿を思い出させてくれる存在であり、このことが教員にとって大きな励みになっていると感じます。

最後に受け入れ側の校長としてではなく、送り出す側の大学の教員として一言です。私も、実習に先立って実習の心構え等について授業で教える立場にいますが、残念ながら大学の授業だけでは伝わらない部分があります。それが実習から戻ってくると、学生たちは一回りも二回りも成長しています。私どもは、一人でも多くの学生がやりがいを感じて教職に就くことを期待していますが、教職を選ばなかった学生にとっても、実習で学んだことは将来必ず役立つはずで。これも、附属学校教員の熱意と、児童生徒そして保護者の方々の協力があったからこそです。このような環境で実習ができた学生、そしてその場で一緒に学んだ児童生徒の将来に期待したいと思います。

最後に受け入れ側の校長としてではなく、送り出す側の大学の教員として一言です。私も、実習に先立って実習の心構え等について授業で教える立場にいますが、残念ながら大学の授業だけでは伝わらない部分があります。それが実習から戻ってくると、学生たちは一回りも二回りも成長しています。私どもは、一人でも多くの学生がやりがいを感じて教職に就くことを期待していますが、教職を選ばなかった学生にとっても、実習で学んだことは将来必ず役立つはずで。これも、附属学校教員の熱意と、児童生徒そして保護者の方々の協力があったからこそです。このような環境で実習ができた学生、そしてその場で一緒に学んだ児童生徒の将来に期待したいと思います。

最後に受け入れ側の校長としてではなく、送り出す側の大学の教員として一言です。私も、実習に先立って実習の心構え等について授業で教える立場にいますが、残念ながら大学の授業だけでは伝わらない部分があります。それが実習から戻ってくると、学生たちは一回りも二回りも成長しています。私どもは、一人でも多くの学生がやりがいを感じて教職に就くことを期待していますが、教職を選ばなかった学生にとっても、実習で学んだことは将来必ず役立つはずで。これも、附属学校教員の熱意と、児童生徒そして保護者の方々の協力があったからこそです。このような環境で実習ができた学生、そしてその場で一緒に学んだ児童生徒の将来に期待したいと思います。

### 北海道教育大学附属札幌小学校における教育実習

【主実習】北海道教育大学札幌校の3年生40名が、5週間または3週間（特別支援専攻）に渡って行います。子どもたちとの関わりを通して、教員志望の思いを強くする学生も多くいます。

研究授業は、大学1年生（約200名）が、それぞれの学級に分かれて参観します。放課後の研究討議にも参加し、授業について話し合います。（大学1年生は「基礎実習（後期）」という扱いです。）3年生にとっては、緊張の1時間。1年生には、近い将来の自分の姿が見られる貴重な経験となります。

実習期間には、運動会があります。札幌小の運動会は、子どもも教員も真剣勝負。実習生も、紅白に分かれて練習をサポートしたり、応援の板書を描いたりします。

子どもたちが企画するお別れ会では、子どもも実習生も大活躍。その姿からは、充実した時間を過ごせたことが、伝わってきます。

実習の修了は、全教員との握手をもって認められます。今年度は、感染症対策から、肘タッチで修了が認められました。将来、修了を認める側に立つ方もいるかもしれません。

【教育実践研究実習】教職大学院生7名が、年間約180時間実習を行っています。大学院での学びを生かしそれぞれのテーマに沿って授業観察や実践を行う中で、指導力を培っていきます。

### 本校の教育実習

名古屋大学教育学部附属中・高等学校では、教育実習を5月と10月の年2回行っています。

教育実習生は、主に東海3県を除く名古屋大学の学生と本校の卒業生であり、現場での実地体験を通して、教員としてのあり方を学んでいます。

### 教育実習記録より

・中1Aと中1Bの2クラスで数学を担当させていただいたのだが、一度も同じ授業にはならなかったのが学校教育の難しさであり、面白さでもあると感じた。1日1日が自分にとって非常にいい経験であったし、教員になってからの糧となるものを積み上げることができた。

・教科指導は生物をはじめ理科が好きになってくれたり、面白いと思ってくれたりする生徒を一人でも増やせると良いなと思いついた。

### 名古屋大学教育学部 附属中・高等学校

#### 大学と連携

名古屋大学と連携し、教員免許を希望する名古屋大学の学生に向けて、講義などを行っています。教育実習事前指導、教育実習事後指導【講義】教科教育法【講義】特別活動、総合的な学習の時間の指導法

名古屋大学の教職課程委員会に本校の担当教員がオブザーバーとして参加しています。

#### 教育実習の数

	3歳実習生		2歳実習生	
	名古屋大学学生	本校卒業生	名古屋大学学生	本校卒業生
2021年度	1期(5月) 2	2	13	3
	2期(10月) 3(卒業生1名含む)	3	11	0
2022年度	1期(5月) 9	1	10(既習生1名含む)	1
	2期(10月) 13(卒業生1名含む)	3	11	1

# 先生！頑張ってね。みなさん、ありがとう！

### 大阪教育大学附属特別支援学校における体験・実習の実際

附属学校の使命として本学の学部生、特別専攻科生、教職大学院生等の実習や体験を受け入れています。実習生へのオリエンテーションでは、本校と本学特別支援教育部門で作成したリーフレットを使用しています。本校での介護等体験や学校インターンシップ、実習オリエンテーション、教育実習、学校実習に参加した学生の感想や様子、上述したリーフレットについては本校ホームページ(右QRコード)に掲載しておりますのでご覧ください。

**実習生・体験生の感想(一部抜粋)**

- ・最初は自分から進んで声をかけるのが難しく感じたが、生徒から声をかけてくれ、たくさん話をしたり遊んだりして、帰りには名前を覚えて呼んでくれたのが嬉しかった(介護等体験生)。
- ・教員の皆さんから教わったこと、そして子どもたちの姿から感じたこと、教育実習での学びを、これから出会う子どもたちに返していけるようにします(学部教育実習生)。
- ・研究テーマに沿った活動に加えて、日々の実習を通して子どもたちとかわり、その成長を見守ることに喜びを感じています。取り組みたいことを自由にさせていける環境に感謝しながら、今後も子どもたちの成長とともに自分自身も学びを深めていきたいと思えます(教職大学院生)。

### 高知大学教育学部附属幼稚園における教育実習の実際

高知大学教育学部附属幼稚園では、「子どもを理解し、子どもの共同作業者として共に遊びを創り出していくことを学ぶ」ということを目的に、高知大学教育学部幼児教育コースと連携して、教育実習の受け入れを行っています。年間、主実習で10名前後の学生を受け入れ、保育実践を重視した取り組みを行っています。

教育実習日誌より～まとめ・考察～  
(一部抜粋)

- ・子ども達とは、一人ひとりと丁寧に、全員と関わる事ができ、また、私自身がとても楽しむことができた。
- ・主の保育者としてやってみると、ねらいに沿った保育ができていないのか、子どもの育ちに繋がっているのかというところにあまり意識が向けられていなかったと感じた。次の日は、ねらいを意識した保育を行う事ができた。
- ・実習を通して、日々の子どもの姿を具体的に捉えながら、その子どもに合った保育を行わなければならないということを実感した。

この他、北海道教育大学附属旭川幼稚園・附属函館中学校・附属釧路義務教育学校後期課程、福島大学附属幼稚園・附属小学校、茨城大学教育学部附属小学校、香川大学教育学部附属幼稚園、福岡教育大学附属福

岡小学校から協力をいただきました。連盟情報広報委員会の今年度の活動として活用いたします。

ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。



福岡教育大学附属小倉小・中学校は、福岡県の北部に位置する北九州市小倉北区にあります。小学校は、明治44年に福岡県小倉師範学校附属小学校として開校し、昨年度、創立百十周年の節目を迎えました。中学校は、昭和22年に福岡県第二師範学校附属小倉中学校として創設され、

## 主管校紹介 福岡教育大学附属小倉二校園

# 全附P連 絵画コンクール 2022

今年度の絵画コンクールは昨年と同様に、フォトコンテストシステムを活用して応募を行いました。今年の本コンクールでは、「好きっちゃ～私の大切なもの～」をテーマに開催され、応募作品は2,074点を数えました。1次審査に通過した作品を主管校である福岡教育大学附属小倉小学校に集め、2次審査が行われました。どの絵からも子どもたちの好きなものへの思いがあふれており、心が温かくなりました。今年度は4名の審査員を迎え、会長賞6点、特別賞18点、好きっちゃ賞36点、カンガルー賞36点を選出しました。



絵画コンクール  
2022  
入賞作品  
スライドショー



## 「誘導の教育」と「創造実践」

75年の歴史があります。小学校では、昭和21年に、当時の藤吉利男校長により提唱された「誘導の教育」により、「子どもが将来にわたって主体的に生き抜く力を、子どもが関わる現実の生活の中で育む」という一貫した考えのもと、「子どもの生活との関わりを大切にすること」の教育実践が行われています。また、中学校では、昭和30年に、教育目標として「創造的実践人の育成」を掲げ、日頃の学びから物事を創造し、それを実際の生活場面に生かしていくための実践力が身につくよう、教育と研究に力を注いでいます。このように、小・中学校が連携し、一貫して児童・生徒が日常の課題と向き合い、日常生活や学校生活を通じて、確かな学力とともに、豊かな人間性や社会性をはぐくむことに力を注いでいます。

本校教員が先人が築き上げた伝統を受け継ぎ、教育と研究に打ち込むことができるのも、本校のPTA組織の多大なサポートのおかげです。これからもPTAという最強の学校サポーターと教職員が協力し合いながら、子どもたちの健やかな成長を見守り続けたいと思います。

## 主管校所感



福岡教育大学附属  
小倉二校園  
主管統括本部長  
仁木 陽介 氏

今年度の絵画コンクール2022を「好きっちゃ～私の大切なもの～」をテーマに福岡教育大学附属小倉二校園で主管させていただきました。子ども達が想う大好きな人や場所や気持ちなどを自由に描いてほしいと願いを込めてこのコンクールを進めてまいりました。

また昨年度と同様にフォトコンテストシステムを使用した1次審査を行いました。このシステムを使う事で2次審査を最小人数で実施できコロナ禍による3密の不安も軽減できました。

審査員の先生方に北九州市立美術館館長、国立大学准教授、北九州市立小学校校長の3名にもご参加いただき国立校、公立校そして地域が連携し結びつく事業となりました。

応募作品は2,074点を数え、たくさん「好き」が小倉に集まり最後まで笑顔の絶えない楽しいコンクールの主管校を経験できた事に心より嬉しく思います。沢山の応募ありがとうございました。

ご応募ありがとうございました。この素晴らしい経験を次年度の主管校に引き継ぎし、この絵画コンクールが盛大に継続して行えることを祈念いたします。



## 審査員講評



北九州市立美術館館長  
九州大学名誉教授  
後小路 雅弘 氏

相変わらずのコロナ禍やウクライナでの戦争のニュースで、いのちの大切さ、かけがいのなさを感じる日々。子どもたちの描いた絵、そこには子どもたちの大切なものが描き出されています。そのあふれる思い、いのちの輝きを大切にしたいと、いつも以上に思いました。それゆえに、そこから受賞作を選ぶことが、とても困難な作業でした。技術的な巧拙はあっても、そこに込められた思いに優劣はないと思うからで

### あふれる思い、命の輝き

す。一方で、わたしたち大人が推奨すべき「子どもらしさ」とは何なのか、審査をしながら思い感えます。そのステレオタイプを子どもたちの作品に押し付けているか、型にはめようとしているか、自省しながら選ぶ作業は苦しくも、子どもたちの思いに触れる楽しい時間でした。



福岡教育大学美術教育ユニット准教授  
笹原 浩仁 氏

一次審査よりかわらせていただきました。全2,074点の作品からは、「描くの楽しいよ」、「わたし描いてみるよ」という、絵を描いたみなさんのたくさんの声が伝わってきました。ですから、素晴らしい賞を

### 描いてくれたみなさんへ

以前担任した子どもが、「先生、図工は平和の勉強なんやね。」(どうして?) 「だって、戦争はなんでもかんでも壊すけど、図工はつくると言っていたこと

を思い出しました。コロナ禍、戦争。明るい未来が見えにくい時代です。そんな中で、みなさんの絵からは、みんなにわたしの感じたことを見ても



北九州市立横代小学校校長  
朝倉 謙吾 氏

第18回全附P連絵画コンクール2022の開催、誠にありがとうございます。コロナ禍となり、人と人のコミュニケーションが制限されています。このコミュニケーションの手段としては、言

### すばらしさ

葉や文字が中心ですが、最も原初的な手段は、色や形で思いを伝える造形表現です。全国から出品されて体育館に並べられた作品も描きたいものや伝えたいことを絵に表現しました。身近なよさを感じる力を感じています。どうぞ、この感性を大いに発揮して、これからの生活の中でも十分に生かしてください。

全附P連  
**絵画コンクール  
 2022**  
**「好きっちゃ」**  
**～私の大切なもの～**  
**入賞作品**

※学校名については略称とさせていただきます。

学校園優秀賞

- ・長崎大学教育学部附属幼稚園
- ・福岡教育大学附属小倉小学校
- ・福岡教育大学附属小倉中学校
- ・東京学芸大学附属特別支援学校



長崎幼 年中  
わたしのまち



鹿児島幼 年長  
きれいな音楽



埼玉幼 年中  
ぼくのヒーロー



福岡教育小倉小 1年  
なつのほしとかがやく町



千葉小 1年  
YS-11



長崎小 2年  
京都大文字焼き



宮崎小 3年  
大切な家ぞく



山梨小 3年  
大自然



山形小 5年  
真夏のひまわり畑



香川坂出小 5年  
大好きなイクラ丼



福岡教育小倉中 3年  
「一生懸命」



名古屋中 1年  
りんごに囲まれて



京都教育特支 高等部2年  
みんなで楽しく公園しよう！



東京学芸特支 小学部6年  
すいぞくかんのおきにいり



静岡静岡小 3年  
ゆうやけこやけ、  
神社でおまいり



茨城小 1年  
ママ、だいすき！



大阪教育池田小 6年  
はばたけ！無限の可能性



福岡教育福岡小 (特支)  
3年  
大すきなぶどう、いただきます

会長賞



愛知教育幼 年長  
だいすきな まりあのひまわり



大阪教育平野小 3年  
平わのビル



福岡教育小倉中 3年  
本の世界

特別賞



# 好きっちゃ賞



茨城幼 年中



長崎幼 年長



長崎幼 年少



金沢幼 年少



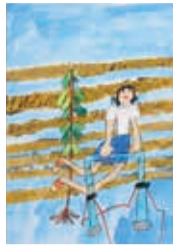
上越教育小 1年



鳴門教育幼 年少



鳴門教育幼 年中



静岡浜松小 2年



静岡浜松小 2年



金沢小 4年



愛知教育名古屋小 3年



神戸小 3年



福岡教育福岡小 6年



横浜国立鎌倉小 1年



広島三原小 1年



福岡教育小倉小 1年



茨城小 5年



茨城小 6年



岡山中 3年



東京学芸国際中等教育前期 1年



香川坂出中 3年



宮崎小(特支) 5年



東京学芸特支 小学部3年



埼玉特支 中学部3年



北海道教育特支 高等部3年



群馬属特支 高等部3年



宇都宮小 3年



福岡教育小倉小 3年



鳴門教育小 4年



愛知教育名古屋小 6年



長崎小 6年



山梨小 6年



鹿児島中 1年



北海道教育特支 高等部1年

# カンガルー賞



福岡教育幼 年長



宇都宮幼 年中



宮城教育幼 年長



静岡幼 年長



富山幼 年長



富山幼 年長



熊本小 2年



広島東雲小 1年



弘前小 1年



福岡教育小倉中 2年  
小倉城



鹿児島小 1年



京都教育桃山小 2年



宮城教育小 1年



山梨小 4年



静岡静岡小 3年



滋賀小 3年



福岡教育小倉小 6年  
夕焼けの若戸大橋



静岡静岡小 4年



福岡教育小倉小 3年



大阪教育平野小 3年



福岡教育小倉小 6年



愛知教育名古屋小 6年



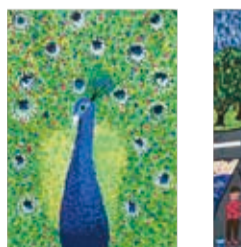
名古屋中 3年



鹿児島中 1年



福岡教育小倉中 2年



静岡静岡小 6年



上越教育小 6年



宇都宮小 5年



茨城中 2年



鹿児島中 2年



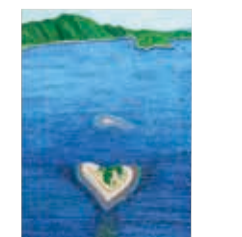
北海道教育特支 高等部2年



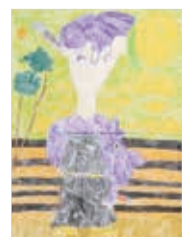
東京学芸特支 小学部6年



東京学芸特支 小学部6年



鳴門教育中 3年



北海道教育特支 高等部1年



北海道教育特支 高等部3年



横浜国立特支 中学部2年



横浜国立特支 高等部2年  
前向きに生きる大切さを  
教えてくれる太陽と虹!!

# いじめ防止対策 新たな取り組み

昨今、全国各地でいじめの重大事案が発生するなど、国立大学附属学校においてもいじめ防止対策ならびにいじめ対策問題は重要な課題です。文部科学省、大学、学校園も重点的にいじめ防止対策に取り組んでいます。私たちPTAにとってもいじめは直接的に関係する問題です。

令和2年度の文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等指導上の諸課題に関する調査」において、国立大学附属学校の学校におけるいじめ問題に対する日常の取り組みが不十分との指摘を受け、今年度からこの分野においても国立大学附属学校が他の学校を先導する役割を果たせるようになるべく事業を刷新し、より多くの学校でこの問題に取り組むことでいじめ問題解決の一助となるべく全国的に事業を推進していくこととなりました。

7月初旬に、現在の取り組み状況やニーズを把握するため、全校にいじめ対策に関するアンケートを実施し、取り組んでいる内容・今後実施したいコンテンツなどを回答いただきました。アンケートの結果「いじめの定義の共

通理解」「ICTに関わるリテラシー」「自己肯定感と他者への意識」「LGBT」など、問題は多岐に渡っており、現場の先生方が悩まれていることがうかがい知れました。

また、いじめ防止対策事業に力を入れて活動し、興味深い取り組みしている学校も数多くありました。そこで、興味深い取り組みをしている学校での講演等を収録し、その動画を使用してどの学校でもセミナーが行えるようにプログラムを作成し、良い取り組みが国立大学附属学校だけでなく、公立学校にも広がっていくように活動をしていきます。

いじめで苦しむ子どもたちが、一人でも早く救われることを願ってやみません。

何か興味深いいじめ防止の取り組みをしている学校やPTA、取材・教材づくりに協力しても良い、という方はいつでもお声かけください。よろしくお願いいたします。

## なぜいじめ対策が難しいのか？



鳴門教育大学大学院  
特命教授(名誉教授)  
阪根健二氏

### 1 いじめ対策を難しくしている要因

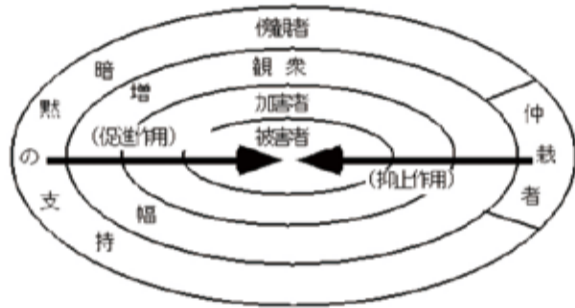
「いじめ」は許されないことであり、人権侵害であることは誰しも分かっています。子どもたちも十分理解していますが、それでも「いじめ」はなかなかないのです。何が問題なのでしょう。例えば、「からかわれている子ども」や「いじられている子ども」を「目撃したとき、あなたはどの対応しますか。実はこのことが「いじめ対策」を難しくしている一因なのです。

ある大人(教師)は、これを「いじめ」と捉えて、からかった者や周囲で笑っていた者たちを指導します。一方で別の大人(教師)は、合意のもとで行われている「遊び」や「ふざけ合い」と捉えて深刻に考えないのです。もし、こうした行為が深刻ないじめだとしたら、確実に対応が遅れてしまふのです。

つまり、やった側や、やられた側の子どもや同級生の行動、両者の関係性、行為が行われた学級の雰囲気や周囲で見ていた子どもたちの反応、あるいは大人側の経験や価値観など、実にさまざまな要因によって、子どもたちの言動に対する理解や判断は変わるものだと考えておく必要があるのです。だからこそ、いじめに対応する教師や保護者側こそ、いじめに関する知識(理論や背景)を得る必要があるといえるでしょう。

### 2 いじめの構造から考える

いじめは「四層構造」だと考えると分かりやすいのです。まず、「被害者」は、いじめられて



《新訂版いじめ》  
森田洋司・清永賢二著(金子書房)

い場合が多いといえます。加害者に囲まれているため孤立しやすく、言葉にならないメッセージを送っていることもあるのです。「加害者」は、いじめであつたり、ふざけであつたり、その両方の絡みであつたり

しますが、本人は意外に意識していない場合が多いようです。そして、「傍観者」は、はやしたてたり、面白がっていたりする人であり、これがいじめの発生に起因していることもあります。「傍観者」は、見てみぬふりをして

いる人であり、これもいじめ発生に起因していることがありますが、実は悩んでいる子どもたちであり、最も多数の層なのです。こうした構造を意識して、いじめを考えると、傍観者が仲裁者

るでしょう。大人たちは、この周辺にいる子どもたちを理解し、いかに支援するかがポイントになります。

### 3 PTAができること

授業参観日にPTA主催の「いじめ予防研修」を挿入し、教員・保護者・児童生徒が一体となって取り組むことをお勧めします。従来、授業参観後には、講演等を聞くというが通例ですが、ここでは保護者として、いじめ問題にどう取り組めばよいか、保護者がグループを作り、話し合いながら対策を考えるという形が望ましく、そこに児童生徒が入れば二緒に話し合う)、大きな効果があります。実は、平成29年6月に、香川大学附属坂出小学校で実施しました。また、子どもの変化を気づくための演習を行いながら、保護者間で話し合えば、ここでも意外な気づき

があります。これは、令和4年10月に奈良女子大学附属中等教育学校で実施しました。このように、保護者の「気づき」を促す研修を各PTAが工夫を重ね、いじめ問題に取り組んで欲しいと思います。

## 実践学から生まれるいじめ対策とは

**大人のいじめ対応姿勢5カ条**

- ①いじめられっ子に非なし  
(どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う)
- ②周辺こそがいじめの元凶  
(いじめの子よりも周りの子への働き掛けが大切)
- ③昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手  
(深刻な時は子どもは訴えないので、それに気づく感受性が重要)
- ④いじめの輪から新たな輪へ  
(既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する)
- ⑤いじめっ子だって泣いている  
(いじめっ子の抱えるストレスにも目を向けて)

(阪根健二さん作成)

### 左図

いじめ自殺が頻発した2006年の秋に、朝日新聞東京本社社会部の要請によって作成。(2006年10月22日付け朝日新聞全国版に掲載)

その後、四国新聞、教育雑誌等に掲載される

## 奈良女子大学附属中等教育学校におけるいじめ防止対策事業の報告

いじめ問題の理解と対応  
保護者と教師の視点



奈良女子大学附属中等教育学校  
PTA会長  
浅井秀紀氏

国立大学附属校におけるいじめ問題に対する日常的な取り組みの少なさが指摘されています。そこで本校PTAはそのモデルとなる事業実施を検討した結果、教育現場での長年の実践経験に裏打ちされたいじめ問題に対する研究の第一人者でおられる鳴門教育大学阪根健二特命教授を講師とした研修を実施しました。

することは承知していましたが、難しい時期の子どもたちと日々接する私たちが一度しっかりと向き合っておくべきだと考えたからです。議論が進むのか心配しましたが、時間が足りなくなるとは、意見が飛び交いました。中には、「死にたい」と子どもから言われた経験等、涙なくして聞くことができない体験談が共有されていたグループもありました。

### ●開催概要

新型コロナウイルスの観点から対象をPTA役員に限定し、後日、各学年の保護者会にて実施内容の報告してもらうこととしました。また、プログラムは阪根先生の講演とグループディスカッションの2部構成としました。

### ●研修を終えて

研修後に行ったアンケートでは、「有意義であった」、「気づきがあった」と回答した人が97%と、高い評価を得ていることが明らかとなりました。また91%の人が「いじめ問題に関して子どもと話してみよう」と思う」と答え、帰宅後に早速子どもといじめの話をしたとの報告もあり、家庭教育への還元の効果も明らかとなりました。今後この取組を全保護者に広げたいことを検討していきたいです。

### ●研修の様子

先生からのいじめに関する質問に、色紙を使って自分の意見を回答し、その解説を聞く形で講演は進められました。問いにこれまでいじめ問題に真剣に向き合ってきた来なかったか、そして自身の考えの浅さを痛感しました。

グループディスカッションは、「子どもが、突然死にたい」と言ってきたら、あなたはどうか答えますか」をテーマとしました。話題としては大変重いものであ





お茶の水女子大学附属小学校  
教諭  
町田直樹氏

本校では、毎年11月に全校音楽会を開催しています。大学の微音室（講堂）に全児童と保護者が一堂に会し、たくさんの聴衆がいる中で学年ごとの発表を聴きあっています。毎年当り前のように開催されてきた全校音楽会ですが、新型コロナウイルスの影響で、中止を余儀なくされた令和2年度。学校行事だけで無く授業を始めた今までの当たり前が崩れていきました。そして、令和3年度。例年とは違う形ではありましたが、全校音楽会を無事開催することができました。

感染症対策を考えると、大学講堂での開催は厳しいなと考えていたとき、もう一人の音楽教員から「外はダメなんですか？」との声。今まで継続してきた形態での開催方法を模索していた中でのひとりで、視点を変えることができ、新たな方向性が見えてきました。



Codomo Photo



Codomo Photo

### 今できることを、できるかたちで ～自分たちで創るコロナ禍の野外音楽会～

発表は5・6年生のみに限定し、1・4年生、5・6年生の保護者は聴き手としての参加を考えました。また、風通しの良

い小学校の芝生の校庭を新たな会場とし、座席は間隔を空けて配置しました。例年ですと、学年の発表は子どもと教師で相談しながら決めていきます。今回は、演奏する曲やメンバー、使用楽器も子どもたちで考えました。これは、音楽の授業で4年生以上が帯単元で取り組んでいる【Music Map】の延長線上にあると捉えています。さらに、発表する曲をどのような構成（アレンジ）にしていくなのかは子どもたちに委ねました。もちろん、ベースとなる楽譜等はありませんでしたが、練習をしていく過程で自分たちの演奏だけでなく、聴き手のことも意識していました。「ここはこうしようか」「終わらせ方はどうしようか」「もっとこうした方が。」実にここには紹介できないほどの考えを出し合う姿があり、50グループの子どもたちが互いに自分たちの音楽を創りあげていきました。

当日は、天候にも恵まれ爽やかな気候のもと、のびのびと音楽を楽しんでいたように感じます。そして音楽会を通して、音楽とはなにかを改めて考えることができていると思います。小学校においての音楽は、演奏が上手下手ではなく、音楽とどう関わって学びを構成していくのか。その営みが大切なのだと思えた音楽会でした。



Codomo Photo

## 寄稿 附属学校の取り組み



福岡教育大学附属幼稚園  
園長  
木部里美氏



銅メダル触らせて！

昨年度50周年を迎えた本園は、全職員一丸となり、幼小接続を意識して「3つの種」を育てています。「3つの種」とは、「あいさつの種」「なかよしの種」「がんばりの種」です。豊かな自然環境や大学との連携を強みに、様々な人との関わりを通して、子どもたちの確かな成長を感じます。

今年度、コロナ禍を跳ね返した貴重な取り組みの中から、一つを紹介いたします。七月十五日、本園で夕涼み会を行いました。午前は、年長ぼぶら組手作りのお店に、年少ちゅうりっぷ組と年中さくら組の子どもたちが、招かれました。水ヨーヨー屋、転がしゲーム屋、スライム屋、射的屋のお店を回り、チケットと景品を交換しながら、子どもたちは楽しいひとときを過ごしました。

### 大成功を収めたサプライズ企画満載の「夕涼み会」 ～メダリストに憧れを抱く子どもたち～



2022年7月17日 西日本新聞「超短波」

午後は、年長ぼぶら組の子どもたちが楽しむ番です。いったん降園した後、夕方に浴衣姿で再登園。明かりを灯した手作り灯籠が並ぶ中、頬を紅潮させる一人ひとりの姿が印象的でした。職員劇を堪能した後、皆で盆踊りを踊りました。一人ずつ自分の手作りキャンドルに願いを込める場面では、静寂な雰囲気にも包まれたものです。また、サプライズ企画として、日頃お世話になっている大学の先生方をお招きしたことで、感謝の気

持ちを伝える場にもなりました。一人は、大学内農場の栽培物やアイガモ等を見せ、子どもたちの探究心をくすぐってくださる技術教育の先生です。もう一人は、夕涼み会のキャンドル作り等の提案・指導をしてくださる美術教育の先生です。サプライズはこれだけではありません。いよいよクワイマックスを迎え、本学の学生で、東京パラリンピック柔道銅メダリスト瀬戸勇次郎選手の紹介プレゼン「ゆめにむかって」（本園職員編集）を見せました。プレゼンが終わると同時に、なんと瀬戸選手本人が登場。大歓喜に沸く子どもたち。「がんばりの種」に通じる瀬戸選手の話聞いた後、自分の似顔絵をかいた手作り金メダルを一人ずつ渡しました。瀬戸選手の銅メダルも触らせていただき、感動の交流となりました。



手作りの笹飾りと灯籠



大学の先生方

## 第4期中期目標 中期計画について

文部科学省は、文部科学大臣が中期目標を提示し、それを受けて各法人が作成した中期計画を令和4年3月30日付けで認可しました。その中では、Ⅰ・教育研究の質の向上に関する事項 Ⅱ・業務運営の改善及び効率化に関する事項 Ⅲ・財務内容の改善に関する事項 Ⅳ・教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項の4項目について令和10年3月31日までの6年間で実行する具体的な計画をそれぞれの学校から示されています。附属学校に密接にかかわってくる内容は、Ⅰ・教育研究の質の向上に関する事項ではないかと考えることができます。その中の「4その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項」では附属学校のことに具体的に明記されている国立大学法人も

あります。東京大学では、「附属学校における教育」と銘打ち、市民、卒業生をも対象にした目標が明記されています。また宮城教育大学でも「附属学校が大学の運営方針と国立大学附属学校としてのミッションをより深く理解し実行できる体制とすることを目的」として課題に取り組むと明記されています。京都教育大学では、「附属学校園の機能強化を図ることを目的」として附属学校園の改組を行うと附属学校園にも言及しております。福岡教育大学では、「大学と附属学校園が連携した学部教育の充実」として大学と附属学校園のかかわりをより具体的に明記しています。残り5年での各国立大学法人の中期目標の実現に向けて、我々附属学校園PTAとして、学校からの要望に積極的にかかわっていきたく考えています。

# 特別支援保護者交流会

特別支援学校・学級保護者のみなさまの交流の機会をご提供するため、令和5年1月下旬に第3回目の特別支援保護者交流会を開催する運びとなりました。

参加された保護者のみなさまと気兼ねなく話し合う中で、「新たな気づき」を共有し、「わが子との関わり」における意欲をよりあげていただけますように企画を練り、準備を進めています。

今年度の事業テーマは、

**「子どもたちと家族がのびのびと過ごすために」**です。

みなさまの奮ってのご参加をお待ちしています。

## 第3回 みんながつながるオンライン文化祭2022

今年で3回目となりましたみんながつながるオンライン文化祭。始まりは2020年、コロナ禍真っ只中の理事会後、オンライン懇親会での雑談の中からでした。コロナ禍で合唱や吹奏楽等の多くの文化部が発表の機会が無くなって寂しい思いをしているという話の中から、「WEB上で発表の場があればどこでも見られて良いのでは」ということで急遽決まり、あつという間に全附連ホームページ上にサイトをオープンしました。

過去2年の動画ももちろん見られ、コロナ禍ならではの楽しみながらソーシャルディスタンスの大切さが学べるソーシャルディスタンス体操や吹奏楽部の演奏、特別支援学校の造形活動の作品紹介など様々なコンテンツがあります。

今年度は個人の部も設けて皆さんの投稿をお待ちしております。全国の附属学校の仲間の活躍で良い刺激をもらい、自分たちや所属校の活躍を全国に発信していきましょう。

## あいサポート運動



ハンディキャップのあることは特別なことではなくひとつの個性です。また、誰もが当事者となる可能性があります。

しかし、ハンディキャップのある方への社会の配慮は十分に行き届いていないとはまだまだ言えません。

あいサポート運動は平成21年11月に鳥取県で創設された運動で、多様なハンディキャップのある方が普段の生活において困っていることを知り、必要な配慮などを理解したうえでちょっとした手助けを実践する「あいサポーター」として行動することによって誰もが暮らしやすい地域を作ることを目的としています。

ハンディキャップの特性を理解し、どのような手助けが必要なのかを知っていれば、手を差し伸べる勇気が出ます。あいサポーター研修はその知識と勇気を皆様に身につけていただく研修です。

あいサポーター研修について詳しくはこちら！



**発行所**

全国国立大学附属学校連盟  
 (一社)全国国立大学附属学校PTA連合会  
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門  
 1-2-29 虎ノ門産業ビル8F  
 全附連事務局  
 TEL:03-3591-2091  
 FAX:03-3591-2092  
 E-mail:jimukyoku@zenfuren.org  
 印刷:株式会社インテックス

**全附P連**

情報広報委員会  
 代表 小林一博  
 (北海道教育釧路義務後期)

編集委員  
 全附連盟

担当副会長 谷田部 秀男  
 (香川高松小)

担当副会長 齋藤 伸  
 (福島特支)

委員長 二村 美里  
 (静岡浜松中)

副委員長 仁木 陽介  
 (福岡教育小倉中)

委員 松井 聖治  
 (北海道教育釧路義務後期)

**第14回全国大会**

次回、全附P連PTA研修会第14回全国大会は2023年9月29日、30日の二日間を予定いたしております。来年また多くのおみなさまにお会いできることを楽しみにしております。

## 《全附P連作文・絵作文コンクール2022》開催のお知らせ

本年度も全附P連では「全附P連作文・絵作文コンクール2022」を開催いたします。日々の学校生活の中で得た体験や感動を作文・絵作文に書くことで、文章表現によるコミュニケーションの魅力を子どもたちにも知ってもらい、文字を書く文化の振興を図り、心豊かな生活を身に付けてもらうことを目指しています。子どもたちが幅広い視野から自分の気持ちを伝える取り組みが進められることを期待しています。

本年度も、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」をテーマとして設け開催します。子どもたちの作品を心からお待ちしております。昨年度会長賞受賞作品



昨年度会長賞受賞作品

## 全附P連 ホームページ SNSページのご案内



全附連 ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter



YouTube チャンネル



オンライン文化祭

全附P連では、会員の皆さまに情報や活動内容を、できるだけ身近に感じていただけるよう、最新情報を発信しています！

全国の附属学校や単位PTAからお寄せいただいた情報、全附P連の活動は、全附P連ホームページ、及び右記のSNSを是非、ご覧ください！

尚、オンライン文化祭のパスワードは、学校からのご案内をご覧ください。

国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

**2022年度 中途加入受付中** **カンガルー保険のご案内** **ただ今募集中!**

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

<p><b>団体総合生活保険</b></p> <p>任意加入制度</p> <p>24時間補償</p> <p>保険期間 2022年4月1日午後4時から2023年4月1日午後4時まで1年間  <small>※臨時ご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2023年4月1日午後4時に終了します。)</small>  <small>※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。</small></p> <p>加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒          ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)</p> <p>加入手続き パンフレット差込の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。</p> <p>申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)</p> <p>※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。</p> <p>[引受保険会社] 東京海上日動火災保険株式会社  <small>(担当課)公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 2022年5月作成 22-TC01328</small></p>	<p><b>約50%割引</b></p> <p>(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割安です。  <small>・団体割引:30%・業種による割引:25%          ・大口団体割引:10%優待</small></p>	<p><b>24時間補償</b></p> <p>お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。</p>	<p><b>簡単・便利!</b></p> <p>・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」          ・更新のお手続きは、便利な「自動更新」です。</p>
<p><b>全員加入制度</b> ※個人での加入はできません。</p> <p>1 園児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する  <b>園児・児童・生徒・教職員 総合補償制度</b>  <small>(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)</small></p> <p>2 園児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする  <b>犯罪被害事故 見舞補償制度</b>  <small>(傷害総合保険)</small></p> <p>3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する  <b>PTA活動総合補償制度</b>  <small>(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)</small></p> <p>保険期間 2022年6月1日午後4時から2023年6月1日午後4時まで  <small>※「カンガルー保険(全員加入制度)」は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会を引受保険会社として、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせて加入する補償制度のペナネームです。          ※この広告は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。</small></p> <p>[引受保険会社] 損害保険ジャパン株式会社  <small>団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-5408 FAX:03-6388-0162 SJ22-02129 2022年5月30日</small></p>			

**カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先**

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

<p>《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》</p> <p><b>株式会社 第一成和事務所</b></p> <p>東京都中央区日本橋久松町11-6          日本橋TSビル 8F ☎ 0120-100-492</p>	<p>《東海・近畿・中国・九州地区》</p> <p><b>海上商事 株式会社</b></p> <p>東京都渋谷区代々木2-11-15          新宿東京海上日動ビルディング ☎ 0120-745-748</p>
---	---